

口頭発表 | 口頭発表

■ 2023年5月27日(土) 9:00 ~ 9:30 | 会 J会場 (14号館144B)

家政学原論 / 家政教育

座長：小林 陽子 (女子栄養大)

9:00 ~ 9:15

[2J-01] 生活を総合的に考えるカード教材の試作

○奥井 一幾¹、宮崎 陽子²、花輪 由樹³、星野 亜由美⁴、谷 昌之⁵、大本 久美子⁶、岸本 幸臣²、小倉 育代⁶、中西 眞弓⁷、表 真美⁸、司馬 麻未⁹、吉井 美奈子¹⁰ (1. 神戸松蔭女子学院大、2. 羽衣国際大、3. 金沢大、4. 兵庫教育大、5. 大阪府立天王寺高校、6. 大阪教育大、7. 甲南女大、8. 京都女大、9. 関西学院大、10. 武庫川女大)

9:15 ~ 9:30

[2J-02] 家政学の広報活動としての「家政学バンダナ」の可能性

IFHE2022での家政学関係者への試行的調査より

○花輪 由樹¹、吉井 美奈子²、表 真美³、星野 亜由美⁴、宮崎 陽子⁵、奥井 一幾⁶、岸本 幸臣⁵、小倉 育代⁷、中西 眞弓⁸、大本 久美子⁷ (1. 金沢大、2. 武庫川女子大、3. 京都女子大、4. 兵庫教育大、5. 羽衣国際大、6. 神戸松蔭女子学院大、7. 大阪教育大、8. 甲南女子大)

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:00 ~ 9:30 | J会場 (14号館144B)

家政学原論 / 家政教育

座長：小林 陽子 (女子栄養大)

9:00 ~ 9:15

[2J-01] 生活を総合的に考えるカード教材の試作

○奥井一幾¹、宮崎陽子²、花輪由樹³、星野亜由美⁴、谷昌之⁵、大本久美子⁶、岸本幸臣²、小倉育代⁶、中西真弓⁷、表真美⁸、司馬麻未⁹、吉井美奈子¹⁰ (1. 神戸松蔭女子学院大、2. 羽衣国際大、3. 金沢大、4. 兵庫教育大、5. 大阪府立天王寺高校、6. 大阪教育大、7. 甲南女大、8. 京都女大、9. 関西学院大、10. 武庫川女大)

キーワード：家政学広報、カード教材、家政教育、家庭科

【目的】本研究は、家政学広報の一環として身近な生活に必要な事柄をまとめたカード教材(関西家政学原論研究会2021~)のデザインなどの改良に向けて、試行授業を実施し生徒から感想を得ることを目指した。【方法】カードはプロのデザイナーに依頼したものをを用いた。実践は2022年11月11日、兵庫県立の高校(普通科・2年生23名)における総合的な探究の時間(50分)で行い、アンケート調査を実施した。【結果】試行授業は「一人暮らしに必要な生活スキルを考える」をテーマに、冒頭、家政学について簡単に紹介した。次に、カード教材を用い、グループで生活スキルについて優先順位づけの作業を行った。最後に生活を総合的に捉える視点や、マネジメントの重要性を説明した。事後アンケート(有効回答数n=23)では、「カード教材があることで話し合いが進めやすくなった(22名)」「カード教材のデザインから家政学という学問に親しみを感じた(20名)」などの回答を得た。一方、「今回の授業を受けて家政学という学問に興味があった」は15名に留まった。今後は、カード教材の改良を試みるほか、家政学の広報の観点で見直し、家政学と家庭科教育の橋渡しとなる役割・活動を継続していきたい。なお、本研究は家政学原論部会2022年度活動助成金を得て行われた研究成果の一部である。

口頭発表 | 口頭発表

2023年5月27日(土) 9:00 ~ 9:30 | J会場 (14号館144B)

家政学原論 / 家政教育

座長：小林 陽子 (女子栄養大)

9:15 ~ 9:30

**[2J-02] 家政学の広報活動としての「家政学バンダナ」の可能性
IFHE2022での家政学関係者への試行的調査より**

○花輪 由樹¹、吉井 美奈子²、表 真美³、星野 亜由美⁴、宮崎 陽子⁵、奥井 一幾⁶、岸本 幸臣⁵、小倉 育代⁷、中西 眞弓⁸、大本 久美子⁷ (1. 金沢大、2. 武庫川女子大、3. 京都女子大、4. 兵庫教育大、5. 羽衣国際大、6. 神戸松蔭女子学院大、7. 大阪教育大、8. 甲南女子大)

キーワード：家政学広報、広報ツール、家政学バンダナ、IFHE、国際調査

【目的】本研究は、関西家政学原論研究会が作成した「家政学バンダナ」(以下バンダナ)の国外での評価検討を目的とした。バンダナは、「生活主体」が「生活対象」を家政学の視点から「マネジメント」する「人間生活の構造」が、イラストと英語で表現されている。【方法】IFHE 2022年アトランタ大会にて世界の家政学関係者50名に、バンダナを配布して試行的アンケートを実施した(回収率：32%)。質問は(1)基本属性 (2)自国の家政学広報の実態 (3)家政学バンダナについての3点である。【結果】回答は7ヶ国16名より得られた。家政学が「世間におおむね知られている」国は62.5%だが、その広報活動は「熱心ではない」(50.0%)「とても熱心」(12.5%)と国毎に差がみられた。バンダナの印象は「極めてよい」(56.3%)「とてもよい」(31.3%)であり、バンダナによる家政学の理解促進は「強く賛成」(68.8%)「おおむね賛成」(31.3%)が多数を占めた。バンダナの活用可能性は、「若い人につながるための素敵な方法」「学生への講義や広報活動に活用」等の意見が挙げられた。一方、課題には「最初は小さな子どもや赤ちゃん向けだと思った」「女性向けの印象」「安全性の表記の位置」「人生の時間軸の表現の追記」等の意見も提示された。親しみやすく伝わりやすい家政学のデザインを目指して、表現方法とその活用方法の検討が今後も求められる。